# オフィスの生産性を劇的に向上させる業務改革手法（4119016）

オフィスの生産性を劇的に向上させる業務改革手法－RPA導入前にすべきことと働き方改革の実践

オフィスの業務改革に取り組む際、改革目標数値を事前に設定した上で進めていますか。そして、その目標に対する達成度を評価できる仕組みを持っていますか。改革の成功とは、改革開始前に見積もられた改革目標数値（あるべき姿）に対して改革の結果（あるがまま姿）が到達しているかどうかで評価するべきですが、改革開始時の事実と改革の結果（共にあるがままの姿）を比較して成功と称しているケースが散見されます。本セミナーでは、多くの経営者が期待している「経済効果を回収できる業務改革」の進め方についてお話させていただきます。生産性という概念を使って測定をベースに業務改革を進めたいと考えている方を対象にしています。

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 2019年4月2日(火) 10:00-17:00 |
| カテゴリー | 業務遂行スキル 専門スキル |
| 講師 | 坂本裕司 氏<br>（株式会社エイチ・ピィ・ピィ・ティ　代表取締役　ヒューマン・パフォーマンス・エンジニア）<br>米国ISPI（ナレッジワーカー・ホワイトカラー生産性向上研究団体）日本支部プレジデントを経て現在に至る。ワーカーの生産性向上技術開発・運用をサポート。 |
| 参加費 | ＪＵＡＳ会員/ITC：33,000円 一般：42,000円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）<br>【受講権利枚数1枚】 |
| 会場 | 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（日本橋堀留町2丁目ビル2階） |
| 対象 | 業務改革を担当する方 中級 |
| 開催形式 | 講義、グループ演習 |
| 定員 | 20名 |
| 取得ポイント | ※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント） |
| ITCA認定時間 | 6 |

## 主な内容

1　オリエンテーション－マネジメントの変遷
－競争優位の変遷
－働き方改革の狙い
－企業の競争優位性
－人材の競争優位性
－業務の競争優位性

2　マネジメント
－「マネジメントができている」とは－その定義
－組織の実態を見てみよう
－何ためにどこをマネジメントするのか
－マネジメント＝内部努力
－経営資源（＝時間）の内部努力有効度を測定する見方－生産性
－測る化

3　業務改革
－「効率」重視と「効果」重視
－経営資源の低減から経営成果増へ
－劇的に変わる、変える
－生産性の定義と生産性が高い状態とは
－基本機能(アウトプットの増大に直結する機能)と補助機能
－成果に応じて基本機能の定義は異なる
－潜在コストを客観的に捉えていますか

－人件費管理から機会利益運用へ
－生産性を向上させるステップ－Process(P1)×Performance(P2)×Utilization(P3)
－物事には正しい順序がある
－ハーズバーグの二要因理論
－取り組み効果(実例)
－仕事の種類と区分
－E→C→R→S

4　業務改善(P1＝プロセス面)
・ステップ
－業務「分類」→事実「測定」→「問題」抽出→現場「改善」
・分類
－仕事の分類
－分析８レベル
－業務管理粒度と基本機能の関係
－業務区分の考え方
－基本機能定義書
－期待される成果
・測定
－測定できないものはマネジメントできない
－測定方法
－ランダムだから全体が見える
－信頼度と回収サンプル数
－測定結果－基本機能比率、業務単位などいろいろな業務実態
－測定結果－感情実態
－改善値の設定